

- 25) Hammermeister KE, Warbasse JR: The rate of change of left ventricular volume in man: II. Diastolic events in health and disease. *Circulation* 49: 739-747, 1974
- 26) Bonow RO, Bacharach SL, et al: Impaired left ventricular diastolic filling in patients with coronary artery disease: Assessment with radionuclide angiography. *Circulation* 64: 315-323, 1981
- 27) Ikeda U, Arishawa H, et al: Cardiotoxic effect of protein kinase C on hypoxic myocytes. *Jpn Circ J* 51: 955, 1987
- 28) Takeshige K, Minakami S: Neutrophil functions and free radicals. *Jpn J Pharmacol* 46 (suppl): 35, 1988
- 29) Penfield A, Dale MM: Synergism between A 23187 and 1-oleoyl-2-acetyl-glycerol in superoxide production by human neutrophils. *Biochem Biophys Res Commun* 125: 332-336, 1984

〈Summary〉

The role of protein kinase C (C kinase) in the left ventricular relaxation impaired by global ischemia was investigated in anesthetized dogs. Left ventricular global ischemia model was made by coronary blood flow reduction and atrial pacing (100-180 beats/min). By this maneuver, the time constant T and left ventricular end-diastolic pressure (LVEDP) were increased in a pacing-rate dependent manner. Intracoronary infusion of H-7, an inhibitor of C kinase, suppressed the magnitudes of the increments of T and LVEDP, while intracoronary infusion of 12-O-tetradecanoyl-phorbol-13-acetate, an activator of C kinase, enhanced the increases of T and LVEDP caused by ischemia. In non-ischemic group, H-7 did not influence T and LVEDP. The results indicate that C kinase is activated by myocardial ischemia and enhances impairment of left ventricular relaxation.

「引用」についての豆知識

「引用」の範囲を超えて他人の著作物を、自身の著作物へ取り込む場合（「転載」）には相手方（著作権者・出版社）の許諾が要ります。（許諾の条件として著作権使用料を請求される場合もあります）但し、「引用」の条件を満たして利用する場合は自由に利用できます。

1. 「引用」の条件

- 1) その著作物が既に公表されていること。
- 2) 執筆上（自説の説明・展開、学説の批評などのため）その文章、図表を取り込み使用する**必然性**がなければならないこと。
- 3) 引用しようとしている文章の長さや、図、表の数・量が客観的にみて**正当な範囲**にあること。
- 4) 原則として、改変を加えず、**原形を保持**すること。（改変使用の場合は、その旨の表示を必要とする）
- 5) 原著者の名誉や声望を害したり、原著者の意図に反した使用法をしないこと。（例えば、原著者が既に訂正・補足した学説を、ことさらに訂正・補足以前のかたちのまま引用し、あるいは引用して批評するなど）
- 6) 引用された文章、図表などがそれと判るよう明示すること。
- 7) 出所（出典）を引用個所に近接して明示すること。

2. 改変使用について

- 1) 原著者の意を害さない範囲で内容を要約しての使用、あるいは、外国語を日本語に訳しての使用は「引用」として認められている。この場合は「出所の明示」に加えて、さらに「…より改変（あるいは翻訳）」などの“ことわり”を入れることが必要となる。
- 2) 二つ以上の著作物を使用しそれを複合利用する場合は、出所の明示に加えて（…と…とより複合）などと、その旨付記する。
- 3) 著しい改変を加え、もはや「引用」とは認められない図表などの場合、それを新しい原図（表）とするか否かは、そこに盛られる表現上の *creativity* の問題であり、その判断は著者自身の学問的良心による。

「引用」かどうか疑わしい場合（特に書籍から利用する際には、まず原著の出版社に連絡されることをおすすめします。「出版権」設定に伴い出版社も複製の権利を所有しておりますし、著者が「著作権」の運用を出版社に委託している場合が通例となっております。

（上記は日本医書出版協会 発行の『著作権の知識—編集・執筆のために』より抜粋。発行所：電話 03-818-0160）

編集室